



## 岐阜米穀(株) メールマガジン

### 今回のテーマは「世界に影響する中国の穀物生産状況」

ウクライナ侵攻や「米中冷戦」の激化によるグローバル化の停滞で食料の自給の必要性を認識することになったのではないのでしょうか。

その中で、中国は増産するのに遺伝子組み換え（GM）作物の栽培を開始と考えられます。中国は、トンコレラの教訓から畜産の拡大に向けて多くの穀物を米国から輸入しました。これからの米国の対中輸出制限に対して、大豆の国内増産に乗り出しました。

2022年の大豆生産量は、前年比23.7%増の2028万トンになりました。

トウモロコシも過去最高だった21年をさらに1.7%上回り、小麦も前年比0.6%増と過去最高を更新したのです。

米については、最大産地の長江流域が干ばつに襲われたので、地下水や肥料などで対応したので、2.0%減で留まったのでした。

中国のトウモロコシと大豆の栽培は、耕地面積の関係で、トレードオフとなっています。

しかし、今回は政策的に混作を推し進め、大豆の作付面積は最大となりましたが、トウモロコシは横ばいで収まりました。

大豆とトウモロコシの輸入量は減り、2022年の輸入量は大豆が910万トンと過去最高の20年に比べて9.2%減り、トウモロコシも2062万トンと前年から27.2%減となった。しかし畜産拡大に伴う飼料の需要増加は止まらないので、大豆やトウモロコシの飼料供給が叫ばれております。

世界は現在、食料の増産とともに地球環境への負荷の低減、秩序ある食料貿易を求めています。穀物輸入最大国の中国の動向が世界に与える影響に感心を持つ必要があります。特に日本では。

食料自給率37%の先進国で最低の日本では、国内自給率をなりふり構わず拡大していくことが必須となっている現状で、食料パニックの対策をするタイムリミットが近づいてきているとは思いませんか。

～～新商品のご紹介～～ オートミール3品シリーズで登場

◇オートミールに使い分けをご提案。

第3種で「ミドルタイプ」を発売しました。ミドルタイプ＝「M」はどんなお客様の要望にも応えるオートミールです。揚げ物用のパン粉の変わりにも使えます。

粒の形状を「S」「M」「L」とパッケージを解りやすくして選びやすくなりました。

半額キャンペーンを計画しております。

4595641702001 クイック オートミールS500g 本体価格@370円

4595641702049 ミドル オートミールM500g 本体価格@440円

4595641702018 ロールド オートミールL500g 本体価格@370円

■オートミール・もち麦などを、PB・ODMを認証工場での受託をしています。